

【大泉町】
校務 DX 計画

①校務 DX の現状と課題

令和6年度「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果によれば、本町の現状は、群馬県全体の平均と同等程度となっている。

校内での情報共有や調査・アンケートの実施のデジタル化は、汎用クラウドツール等の活用や、校務支援システムを整備したことで、8割の学校が半分以上デジタル化を取り入れている。欠席連絡や調査・アンケートの実施など、保護者との連絡も8割の学校が半分以上デジタル化している。一方で、校内での資料共有や学校からのお便りの配信は、5割程度にとどまっている。

また、教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化における各種連絡事項の配信、FAX や押印の廃止は一部の学校で進められているが、依然として紙ベースの業務が根強く残っている。

②校務 DX の課題解決、次世代の校務デジタル化

令和7年度より、県域共同調達で学校デジタル基盤(校務支援システムと汎用クラウドツール)の導入が検討されている。本町でも参画に向けて検討を行う予定。

県域のデジタル基盤に参画することで、校内、学校と保護者間、学校と児童生徒間のデジタル化の基盤が整備されるとともに、県域で活用事例や先進事例が共有され、本町でもそれらを取り入れることで教員の多忙化解消等に資するためのデジタル活用を積極的に進めたい。

また、校務の効率化・ペーパーレス化の阻害要因である FAX や押印の見直しを進めるとともに、セキュリティポリシーの制定や、要録の電子保管等の課題についても、県域の事例を参考として検討を深める。